

地球規模のインドへの円借款の取り組み (環境分野での協力)

Masayuki Karasawa
唐澤 雅幸

国際協力銀行 開発第三部第二班 課長

1. インドの環境分野の課題

インドにおける環境問題は、その人口・経済規模の大きさゆえにインパクトが大きく、近年の高成長もあり、有機汚染物質排出量（水質汚濁）や燃料消費量で世界第4位となっている。また、大気汚染、水質汚濁（河川、海洋、湖沼）、森林破壊、土壌汚染のみならず、飲料水や保健衛生に関係する都市部生活環境の悪化、生物多様性の減少等、広範かつ多様な対象が含まれている。近年の動向を見ると、特に都市部における上水の不足が深刻化している。

2. インド政府の対応

世界の貧困人口の1/3を占める貧困の削減と併せ、こうした環境問題への取り組みを進めるため、インド政府は、第10次5ヵ年計画（2002年～2007年）において、「衡平かつ持続可能な成長」を主要命題として掲げ、社会福祉の向上や、貧困対策に加え、経済成長と環境保全の両立を重点開発課題と位置付けている。また、第11次5ヵ年計画（2007年～2012年）では、「より早く、広範囲の人たちが裨益する包括的な成長」を主要命題として掲げつつ、環境分野では、森林被覆率の5%改善、全国民の清潔な飲み水へのアクセスの確保、主要都市で大気質のWHO基準を達成、全ての都市で下水処理の実施、エネルギー効率の20%改善（2016年度まで）等の具体的な目標を掲げている。

3. 日本政府およびJBICの協力方針

日本政府は、2006年5月に「対インド国別援助計画」を策定し、①経済成長の促進、②貧困・環境の改善、③人材育成・交流の拡充を重点目標と定めており、同計画をふまえた本行海外経済協力業務実施方針（2005～2007年度）の対インド国別方針では、持続的な成長を通じた貧困削減を図ることを目標としつつ、①経済インフラの整備、②貧困層が裨益する地方開発、③環境問題への対応を重点分野としている。

4. JBICの協力実績

本行のインドにおける環境分野での協力は、①停滞地域・格差への対応に配慮した森林資源管理の改善と、②経済成長の促進に配慮したエネルギー効率の改

善、さらに③工業化や都市化に伴って深刻化し、住民の健康に直結する水問題への対処および廃棄物処理と、大きく3分野に分けることが可能である。①～③の各分野における協力内容は以下の通りであり、①および②の分野に対する協力は、貧困削減・経済成長と気候変動対策の両立を目指した内容となっている。

①森林資源管理の改善に係る協力（植林）

- ・住民と州政府の共同森林管理を通じた持続的な森林保全
- ・温暖化ガス吸収（緩和）や土壌・海岸侵食対策（適応）等総合的な対応

②エネルギー効率改善に係る協力

(1)都市交通網整備（都市鉄道および道路整備）

- ・バイク・自動車から都市鉄道への移行による利用者1人当たりエネルギー消費量の抑制（CO2排出量で20～60%の削減効果）
- ・渋滞緩和によるエネルギー消費量の抑制（自動車速度1/4で、CO2排出量2.5倍）

(2)高効率発電技術導入と送配電効率の改善、再生可能エネルギーの活用

③水問題への対処、廃棄物処理に係る協力（上下水道整備および廃棄物処理）

- ・漏水対策や節水、メーター設置等による水資源の有効活用
- ・料金徴収体制見直し等による実施機関の財務体質の健全化、事業実施・維持管理能力の改善

5. 今後の協力の方向性

本年7月の洞爺湖サミットにおいては、環境・気候変動対策が主要アジェンダとなるが、2013年以降の枠組みの実現に向け、インドは相応の役割を果たすことが期待される。上記2.で言及される、インド政府計画関連指標を含めた適切な目標とその達成に向けた具体的な方針の共有、これに基づく協力が必要と考えられる。

引き続き上記3.①～③の各分野での協力のニーズは高いものと認識されるが、従来のインフラ整備に係る協力の中での省エネ技術の活用、産業分野での省エネ技術導入等協力のニーズへの対応についても検討の余地があるものと考えられる。